

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2068号 2011年05月30日(月)

《 ending the role of averse currency ? 》

先週は一端82円台までドルが強くなったものの、やはり伸びきれずに80円台まで落ちてくると言う展開の週でした。82円台になったときに、「勢いに欠ける円安」という印象だったが、実際にドルが82円台以上に強くなる要因を見つけられずに週後半はギリギリとドルが対円で値を失ったという展開。しかしその中でも単なる印象かも知れないが、最近の大きな危機の後に顕著に見られた「世界的な危機→リスク・アバースでの機敏な、そして大幅な円高」という構図が徐々に崩れてきているのかもしれないと思いました。

82円台にまで行ったドルが落ちてきたのは、肝心のアメリカ経済が色々な指標から見ても、やや「中だるみ」の状況にあって力強さに欠け、同国の長期金利もかなり「回復期待含み」の水準から低下してきた為だ。ドルを動かす要因として金利は非常に重要で、それはより多く対ユーロで言えることなのだが、円にも要因となる。その金利がアメリカで長いところを中心に下げている。これでは、82円台からさらに円安という展開は望めなかった。

しかし先週の市場をじっと見ていると、商品相場の大崩れの時もそうだったが、「何かあればとりあえず円が買われる」というマーケットの脚気反応は、少なくとも“弱くなった”との印象を受けた。「何を根拠に」と言われるとそれはなかなか説明がしにくい。しかし、何度か円が上昇しても良い状況が生じた中でもドル・円相場が動意に欠け、円高に移動しなかったことで、市場の状況が少しずつ変わってきた印象を筆者は受けた。

考えれば、今の円が「リスク回避の通貨」になっている理由を列挙するのは、なかなか難しい。何よりも財政事情は悪いし、経済は少子高齢化など多くの問題を抱えていて、経済成長力は弱い。金利は低く、上昇する見通しもない。株式市場に力強さも見られない。通貨の価値を高めるデフレの状況も、世界的な物価上昇の中で消費者物価がプラスになるところまで変化してきた。むしろ、「他にリスク時に資金の受け手になる通貨」が有るかと言われれば、「今のところない」ことに変わりはないので、やはり大きな危機が訪れたら円が買われる可能性がある。しかし、介入のリスクを負っても円を買い進める力は今の円にはないように見える。

その結果は、今のレンジ取引の継続という形になっている。大きなレンジは動かないにせよ、その中で相場を動かす可能性があるのは、今週発表される様々な経済指標だ。一番注目されるのは、週末金曜日に発表される米5月の雇用統計だ。先月は予想外に強かった雇用だが、今月は予想では18万人台と先月の24万4000人から増加ペースが鈍る見通し。こ

れが予想外の伸び欠如ということになれば、ドル安にマーケットの動きが傾斜する可能性が高い。予想外に強くても、ドルの上値には限界があろう。というのは、その他の指標に弱い動きが見られ、株価もそれを反映して先週は1%弱下がった。水曜日から金曜日にかけての小幅上昇の連続にもかかわらず、株式市場も力に欠ける。

なお米財務省は先週末に半年に一度の外国為替報告書を米議会に提出して、「為替操作国」に該当する国はなかったと発表した。中国を17年ぶりに“為替操作国”として認定することはないだろうとの見方が強かったが、やはり米財務省が選んだ道は「該当なし」だった。昨年6月以来中国が人民元切り上げを進めていること、中国との協調関係を著しく崩したくないとの立場から、今回も認定を見送った。ただし、同報告書は中国が切り上げペースをさらに引き上げることが必要だと指摘している。またこの報告書は、日本について昨年9月の単独介入と今年3月の協調介入に言及しており、「市場の無秩序な状況に対応する」ことが目的だった、としてその妥当性を指摘している。

《 focusing on Friday 》

雇用統計以外にも今週は注目される指標が発表される。1日に発表される米5月のISM製造業景気指数は、アメリカ経済の生産活動の動向を見る上でも重要だし、同日の米5月コンファランスボード消費者信頼感指数は、消費者の景気に対する信頼感を見る上で重要だ。もっとも、週初はアメリカ、イギリスともお休みなので、静かな始まりとなりそうだ。

なお、スキャンダル（本人は否定）で国際通貨基金（IMF）の専務理事を辞任したストロスカーク氏の後任については、主要8カ国（G8）が仏ラガルド経済・財政・産業相を支持することで一致しているようである。これはフランスのジュペ外相がこの週末にテレビ番組に出演して述べたもので、同外相は「次期専務理事について主要8カ国（G8）が仏ラガルド経済・財政・産業相を支持することで一致した」と述べた。日本経済新聞などによると、サルコジ仏大統領はドービルで開いたG8首脳会議（サミット）での2国間会談で、各国首脳にラガルド氏を支持するよう要請。これまでラガルド氏支持を明言していた英国やドイツに加え、日米などもラガルド氏支持を固めたとされる。

新興国は欧州出身者が続けて就任することに難色を示しているが、候補者を一本化できていないとも言われ、副専務理事のポストを狙っているとも言われる。

今週の主な予定は以下の通り。

5月30日（月）	休場／米国（メモリアルデー）、英国（バンクホリデー）
5月31日（火）	4月家計調査・労働力調査 4月住宅着工 米3月S&Pケースシラー住宅価格指数 米5月コンファランスボード消費者信頼感指数
6月1日（水）	米5月ISM製造業景気指数

	5月自動車販売台数
	米5月ADP雇用統計
	米4月建設支出
	ピアナルト米クリーブランド連銀総裁が労働市場について講演
	米5月自動車販売台数
6月2日(木)	1-3法人企業統計
	米新規失業保険申請件数
	米4月製造業受注
6月3日(金)	4月家計消費状況調査
	米5月雇用統計
	米5月ISM非製造業景気指数

《 have a nice week 》

がっかりの週末でしたね。ずっと雨。かつ今週の予報を見ると、ずっと雨。たとえ梅雨入りしたとはいえ、「梅雨の晴れ間」が週末に一日でもあってくれば良いのですが、それはなかった。週末ちょこっと都内の商業施設を覗きましたが、行くところがなくなったのか、大勢の人が押しかけていました。結構凄い人出だった。

ところで、先週は久しぶりに旧知のインドの友人と食事をしたのですが、同国の変容ぶりを聞かされて、「へえ、また行ってみたいな」と思いました。彼が言うのです。「(インド人である彼にして) 本当にびっくりした」と。彼の携帯に入っている写真も見せてもらいましたが、本当に私の知っているインドではなかった。インドは急速に変わりつつある、と思いました。何よりも、あの汚かったニューデリー空港が綺麗になっただけ。私が最初行ったとき、2000年代の前半でしたが、それはそれはみすぼらしかった。貧しいインドの人々のたまり場のような場所でした。それが2000年代の半ばに綺麗になり、今回全く綺麗になった、と。「次回行ったら、まだそこら中にいるインド人は見なくて良い。空港をまず見て」と彼。

次は地下鉄。彼の写真で見る限り綺麗で有名なワシントンの地下鉄のように見える。どこでもタンを吐いたインド人が、このホームでは全くそれをしないそうです。環境が人を作るということでしょうか。これらの施設は、去年10月の英連邦競技大会開催に際してインドが威信をかけて作ったものらしい。歩道橋を作ったがそれが落ちたくらいしか日本には伝わってきていなかったが、ちゃんと前進していたんですね。インドとしては、中国がオリンピックをやった以上、「いつか自分達も」と思っているはずで、その準備を始めたと言うことでしょう。過去のオリンピックでは殆どメダルに届いていなかったインドの選手達も、政府の強化策もあって英連邦競技大会ではかなり3位以内に入った。

食事の最後には、「そろそろインドに行かなくては」と思う私がありました。彼のコメントは「最後に行って5年だからちょうどいいじゃないですか」でした。それでは皆さんには、良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》